

## 耐久性・効率性等を重視した施設・部材の整備・管理基準の充実

ポンプ、堰などの施設は、時間管理型（耐用年数管理）注文生産であり、部品の欠品等の問題により、維持修繕、更新に問題が生じている。これら施設や部材等について、設置環境や施設の種類、重要度に応じた、必要な機能、耐久性、品質について基準化し、これらの健全性に基づいた管理を行いライフサイクルコストの低減を行う。また部材の規格の標準化を行う。

### 設置環境や施設の種類、重要度に応じた仕様の策定

施設や構造物を構成する部材等の必要な機能、耐久性、品質等の観点から[1]重要な部材は信頼度を高く、[2]損傷しても重大な機能の低下につながらない部材はある程度の損傷を許容する 等となるよう仕様を変更。

### 健全度評価基準の設定と「修繕カルテ」の作成

所要の安全度を確保しつつライフサイクルコストを低減するため、[1]施設や部材の健全度を測る「ものさし」としての機能維持や老朽化等の基準による評価を行い、維持更新の優先度やスペック（耐久性、品質等）を基準化する「健全度管理型」の管理、[2]効率的な整備、管理のため「修繕カルテ」の作成等を実施。

### 部材の規格の標準化

更新コストを低減するため、部材の規格の標準化を導入。部材の標準規格については、標準設計図書に位置づけ、展開を図るとともに、これを標準部材として汎用性の確立、コスト縮減を図る。

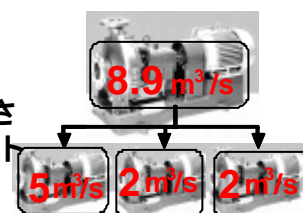
### 「健全度管理型」の維持管理のイメージ

あらたな「ものさし」を導入：  
施設 部材の重要度、設置条件で評価

「健全度管理型」の維持管理：  
「ものさし」に基づく評価により設定した「健全度」に基づく管理を実施。



部材の規格の標準化：  
ポンプ等について、規格化された標準的部材を用いコストを縮減



## コスト構造改革の推進

「国土交通省公共事業コスト構造改革プログラム」に基づき、事業のスピードアップ、設計・調達最適化をポイントとした公共事業のすべてのプロセスを例外なく見直す「コスト構造改革」に取り組んでおり、事業のスピードアップによる事業便益の早期発現や将来の維持管理費の縮減等、総合的なコスト縮減をより一層推進し、平成15年度から5年間で、平成14年度と比較して15%の総合コスト縮減率を達成することを目標とする